

## 行詰まり

世の中の人ばかりじゃない、信者でもそうだが、よく行き詰まりという言葉が発するが、これは物の真相を弁えないからで、何事も行き詰まりがあるから発展するので、つまり行き詰まりじゃない訳で、ちょうど駆け出し過ぎては息が続かないから一休みするのと同じわけで、いわば節である。これは竹を見ても分かる通り、伸びては節が出来伸びては節が出来るから丈夫に育つので、伸びるばかりで節がなければ、あの強靱な竹とはならないのである。従って節の少ない竹程弱く、節の多い程強いのはそういう訳である。このようにすべては自然が教えているから、何事も大自然をよく見つめれば物事は大抵分かるはずである。

右は自然の行き詰まりについて書いたのだが、困ることには人為的に行き詰まらせる人も少なくないので、これこそ叡智が足りないためで、こうすればこうなるという先の見通しが見つからないからである。こういう人こそ壁に突き当たって二進も三進もゆかなくなるのであるから、これを読んだらよく心の奥に蔵っておき、行き詰まった際振り向いてよく考えてみれば分かるはずである。それによってどこかしら間違っている点に気がつけばいいので、人間は普段から精々知恵を磨いておくべきで、それには出来るだけ御神書を拝読すべきである。

【昭和 27 年（1952）御発表】